

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570112342	
法人名	有限会社ケアランドあきた	
事業所名	グループホームうららか	
所在地	〒010-1414 秋田県秋田市御所野元町四丁目2番3号	
自己評価作成日	平成30年12月4日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 秋田県社会福祉士会
所在地	秋田市旭北栄町1番5号
訪問調査日	平成30年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高品質の認知症ケアというサービスを生産し利用者に提供するために、介護職員の働きやすさに主眼を置いている。採用時には経験より資格より知識より、何より現在の職員の中に組み込んでチームワークを構築できるかどうかを重要視している。(半面、各々がリーダーシップをとるのが苦手という側面も自覚している)またほとんどの日程において配置基準プラス1名を置き余裕のある現場を実現して、職員自身または家族が体調不良の際などに休みやすい＝休みを言い出しやすい体制を敷いている。この余裕が全国的に増加傾向である虐待と不適切な身体拘束の排除にも活かしているほか、これも全国的な人手不足への対策＝定着率の向上に役立っていると自負している。
看護師と施設長・管理者でもある経営者が常に現場に居ることにより機動力があり判断が早い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一つの枠に、はまらず施設の理念である「気ままに、ゆったり、マイペース」が生かされた介護が実践されており、利用者との会話や接し方でも、とても良い関係が築かれている。管理者でもある経営者が現場に居ることで、決断力や機動力に時間がかかるとなく、利用者本位、職員本位の体制が築かれており、生活の場として、穏やかな日常を送る場としての体制づくりに努力している。
今後看取り介護をしていく中で、研修の充実を図るとともに、職員の心のケアの支援、計画的研修を取り入れることを期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気ままに・ゆったり・マイペース」という理念の中心はホールおよび玄関・事務室に掲示しているほか、紙媒体のリーフレット、ウェブ媒体でも記載し、経営者および職員は実践の基準としている。	「気ままに・ゆったり・マイペース」という理念を目の届くところに掲示されており、また代表者より施設の理念について抜き打ちの質問があるとのこと職員間での共有も図られている	特にありません
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームとして町内会に所属している。施設長は今期の役員も務めており自主防災担当になった。総会の議長を務めたこともある。認知症カフェの案内チラシを回覧板で回してもらっている。	町内会に所属して施設のイベント、認知症カフェの開催チラシなどを施設以外への発信をして地域住民の参加を得ている。地域の他事業所との交流も定期的に行っている	特にありません
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症カフェをはじめ外部の方をお招きしているほか、町内のイベント・行事にも可能な限り参加している。レクリエーションのボランティアやサークルを定期的に招いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括の職員を中心に町内会役員・ご家族が参加してきたが近隣グループホーム2事業所の職員も相互に参加するようになった。話し合われた内容がすぐにメニューに反映されたことがある。	運営推進会議は定期的開催されており近隣の他事業所職員の参加もある。	特にありません
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の方針として市職員は運営推進会には参加しないとのことであるが、秋田市認知症グループホーム連絡会(ケアパートナーズ)を組織し、市職員を招いて研修を実施している。	グループホーム間の空室情報のシェアがされ、またグループホーム連絡会の研修を通して市の担当者と、連携し必要な情報を収集している	特にありません
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不適切な身体拘束の事例と実施する場合の要件をミーティング・内部研修で共有している。玄関の施錠も人権侵害になることを周知し緊急時および安全優先時以外は施錠していない。	全職員は身体拘束をしないための研修をしてケアに取り組んでいる。玄関の施錠を含め、現在拘束を必要とする利用者はいない。	特にありません

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	協会の教材や研修資料を用いてミーティングの際に共有している。平成30年の介護報酬改定に伴って、虐待と身体拘束廃止についての委員会を設置し運営推進会議に併設している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りのない生活保護の受給者の終末期のケアを実践として経験しているが、座学の形では未実施である。研修を企画したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に入居時の打ち合わせで行っているほか、随時ケアマネ・看護師または施設長から電話または面会時に対話を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3～6か月おきのケアプランの更新でのやりとりを中心として、外部評価、運営推進会議、および面会の際にくみ取っている。反映は申し送りノートにより即時、または職員ミーティングで検討ののちとケースによる。	家族の意見はケアプラン更新時や、外来受診時などの機会をとらえて意向確認をし、ミーティング時に検討している。	特にありません
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを中心に業務の傍らにも話をきいている。	毎月開かれるミーティング、また職員同士のLINEグループ(SNS)を通じて意見交換をしている。ミーティングには管理者も参加しているためその後の対応への反映は速やかにできているとのこと。	特にありません
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格・役職により手当を支給しているほか、これに加えて受け持ち業務や服務姿勢を処遇改善加算手当の配分係数として反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者が率先して可能な限りの各種研修に参加できているが、全職員としてみればまだ不十分であり改善の余地がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	かつて市内の事業者連絡会を立ち上げており、その後も協会の秋田県支部の立ち上げに加わり現在も役員に就いている。今また南部圏域の事業所による勉強会に加わり取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	根本的に不可能な事柄以外については実現できている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	良好にして評価の言葉をいただいております。家族を含めたケアチームを構築できている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	擬似家族の生活の場となれているようである。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居開始の際は原則的にご家族もチームケアの一員として可能な限りの協力をお願いしており、関係性の継続についても支援している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や近隣にお住まいだった方との面会や手紙のやりとりもご家族の確認を得たうえで支援している。	親類や友人の面会を受け入れていることを施設長より確認。訪問当日アニマルセラピーの方たちの訪問があり入居者が犬とのふれあいで楽しそうに穏やかな表情をして接しているのを確認。施設としては多くのボランティアの受け入れをしています。	利用者には他者との交流の刺激をボランティアの方たちには発表の場をとっても良い関係であると感じました。今後も交流を続けられることを期待します。
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者どうしのトラブルに配慮しながら「とりもつ」介入を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先サービス事業所への情報提供は可能な限り対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「気ままに・ゆったり・マイペース」の理念のもと努めている。	利用者の希望や意向を把握し、施設の理念である「気ままに、ゆったり、マイペース」の理念のもと職員が利用者とかかわりお互いに助け合うことが自然とできている様子がうかがえた。	特にありません
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴と直前までの生活環境も重要な引継ぎ情報として提供をお願いしてサービス提供に利用、とりわけ本人の意思確認が困難な場合の判断材料としている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の居室担当職員とケアマネを中心として蓄積された情報を整理し、担当者会議やミーティングを通じて業務に落とし込んでいる。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、看護師、施設長を中心とした担当者会議の内容をもとに原案をつくり、そこにご家族の意見を反映させるプロセスであるが、運営推進会議からのアイデアが盛り込まれることもある。	生活中心の介護計画であるが管理者、介護支援専門員、看護師が中心となり、(ご家族の意向も入れ)サービス担当者会議を実施し、月1回のミーティングの場を利用し、ケースカンファレンスを行っている。	特にありません
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣公園、イオンモール、散歩道など恵まれた環境にあるため気候とともに活用している。市の介護支援ボランティアが来訪され歌や手遊びを楽しむほか不定期ではあるが地域の子どもたちとの交流も見られて		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけとして米山消化器内科とスプリング調剤薬局、おのぼ歯科。一部、秋田往診クリニック。このほか個別の精神科または認知症専門外来を受診している。その他、家族の希望に応じて入所前の医療機関を継続して受診するケースもある。	入居時にかかりつけ医師、かかりつけ薬局の確認をし、継続して受診している。	特にありません
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム職員として配置されている看護師が24時間オンコールで対応可能である。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ほとんどのケースで病院の医療相談室の職員と連絡を取り合いながら経過を見守っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前後に退去時のことを視野に入れた内容の説明をしている。概ね特養への転居または秋田往診クリニックとの別途契約の上での終末期ケアを選択することになるほか急性症状で入院して復帰困難になる場合もあることを説明している。	看取りについて、医療機関との契約、訪問看護との契約など看取りの体制が作られている。	職員へ看取りについての指針等は研修されているようだが、看取った後の職員への心のケアが必要ではないか、研修に心のケアも含まれることを望む。
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設長(管理者)と看護師が常に連絡がつく体制にしてあるほか、近年はSNS(LINE)を使用した緊急連絡訓練を行っている。年2回の避難訓練には消防署員の指導のもと心肺蘇生法などの訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	立地的に水害はあり得ない立地でありハザードマップからも避難計画作成義務が無い地域であるので、火災・地震を想定した対策を講じている。指定避難所のみならず公民館の利用も町内会と協議している。	定期的に避難訓練は実施している。また、避難場所である地域の公民館にも水や毛布、暖房器具など防災備品が整備されている。施設としては発電機や食料などのほかに台所にガスコンロ用LPガスを配管した。	特にありません
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親近感と立場・マナーの兼ね合いについて意識しながら業務に就く必要性は終わることなく未来に繋げる必要がある。日常業務の傍らおよび職員研修で折に触れて取り上げている。	職員一人一人が利用者に対する言葉使いは丁寧で、人格を尊重するものであった。	特にありません
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	就業時は姿勢として希望のくみ取りや選択肢の提供を行えるよう常に意識することが必要である。あらためて機会を設けるよりも日常会話の中から収集できるよう工夫が必要であり指導していきたい。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「気ままに・ゆったり・マイペース」の理念のもと、朝が苦手な方や宵っ張りの方なども時間帯を前後させて対応している。レクに参加する・しない、ホールでにぎやかに過ごす・自室で静かに過ごす、も自由である。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的にケアとして行っているほか、2名の職員が資生堂の化粧セラピストの資格を持ち、美容レクとして本格的に行うこともある。訪問理容は2ヶ月に1回あり希望により利用することができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の世代の移ろいに伴いメニューも更新し続けている。お寿司、ラーメンなどファーストフード的なものを好む方も多くなり提供している。外食レクも可能な範囲で行っていた。最も注力したい分野である。	訪問日は利用者の方の誕生日とのお寿司を食べていた。当日の主役は体調がすぐれないとことで自室で職員見守りのもと食事をしてきた。食事時のメニューも多施設との交流でよいところを取り入れて利用者が楽しく食事できるように工夫されていた。後片付けも利用者が可能なことをお手伝いしていた。	特にありません
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝昼夕3食および午前午後のお茶・おやつ、これらの定期摂取にとられず、随時欲しい時に提供できるようにしている。また職員から進める場合もある。熱すぎず冷たすぎない温度にも配慮している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い歯磨きや義歯の清掃を行っているが強制することはない。かかりつけの「おのば歯科クリニック」による訪問診療や義歯の調整を行っている。アドバイスを求めることもある。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	意欲・能力・習慣はできるだけ活用できるようにしている。夏場であればシャワー浴と組み合わせて清潔保持に努める。転倒防止のため離床センサー発報から介助に入れるようにしている。	利用者の排泄パターンの把握をして、排泄用品の工夫やトイレ誘導の声掛けは個々の状態に合わせて行われていた。	特にありません
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤・整腸剤に頼り切るのではなく、乳酸菌飲料やオリゴ糖を毎日摂取し、軽い運動も促すなど複合的に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方にはできる限り、嫌いな方でも週に1回か10日に1回でも入ってもらえるよう促している。なかなか完全に好きな時間に、とはいかないが、夏場であればシャワー浴も含め柔軟に対応できている。	入浴も利用者の状態に合わせて行われていた。利用者の加齢に伴い一人介助が無理な場合は二人介助にして対応している。	特にありません
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援できている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホーム配置の看護師を中心に医療機関および調剤薬局のアドバイスを得ている。特に薬局には錠剤の粉碎や複数種の一包化など細やかな対応をもらっている。向精神薬系の調整は専門医の診察を以て行っている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者に楽しんでもらうことは職員にとってしても大きなやりがいである。趣味や音楽、特技、食べ物など情報を共有し取り組んでいる。往時の話題で記憶を引き出すことも貴重な機会である。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事前に体制を整えたいうで、またはご家族の協力を得て行っている。「その日の希望によって」というのは簡単ではないが当日の体制によって対処したい。外出した事実や行先など記憶に残らないことが多いので可能な範囲で写真で残すようにしている。	出来る限り外出できるようにしている。外出時は写真に残して利用者写真を見てその時の話をしたりしている。	思い出の写真が増えて楽しいお話がたくさんできること。また職員と写真を見ながらお話をすることで楽しい記憶が利用者の刺激となるので、外出時の写真を今後も続けていられることを期待します。
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現時点では預り金の取り扱いの対象者はいないが、かつては対応したことがある。買い物も立替代理購入が主になっている。希望をとり機会をつくりたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	積極的な支援ができています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	やや雑然としがちであるので整理整頓を心掛ける。その他は概ね達成できていると思われる。	居心地の良い空間づくりをしている配慮は感じたが雑然とした共有空間は利用者の安心につながるのではと感じた。	置かれている物に躓かないように転倒に注意をしてください
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	手狭な事業所であり「独り」と「大勢」の中間的なスペースの創出は開設以来の課題である。「見慣れた人たちの姿は見えるけれども独りで静かに居たい」という居場所をやりくりしてつくりたい。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンス・テレビなどは入居前からの使い慣れたものを持ってきて頂きたいと告げている。人によっては写真立て・位牌・仏壇なども持ち込まれるので関係性の継続に役立っている。	利用者の居室は入居前に使用していたものが持ち込まれており、生活の継続性や居心地の良さに配慮していると感じた。	特にありません
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	人権を尊重し身体拘束をしないケアは事故防止と相反する場合がある。家族にも説明しているが職員もいざ現実としてみれば受け入れ難い面もあると思われる。今一度「見守る」「支援する」を考えていきたい。		